

夢のを見つけ方・叶え方・諦め方 ～全力疾走でワクワクの先へ～

生山 裕人 氏

6月3日土曜日。本校56期生の生山裕人（いくやま ひろと）氏をお招きし、桃陰文化フォーラムを開催しました。

氏は、近畿大学文芸学部に進学後、ほどなくして休学し香川オリーブガイナーズ（野球独立リーグの四国アイランドリーグ）に入団。2008年には千葉ロッテマリーンズに育成ドラフトで指名され4年間在籍したのち、ウェディングプランナーに転身、という異色すぎる経歴の持ち主です。どんなお話が伺えるのか、ワクワクして講演に臨みました。

この日は土曜日ということもあって、生徒100名、保護者と一般の方100名、総勢200名が集まりました。氏は、やんちゃな高校時代から野球にのめり込んだ大学時代、プロ選手になってから、と、簡単にご自身の経歴を話された後、質問に答えながら深い経験と思いを柔らかい口調で語られました。

四国アイランドリーグのテストに合格し、香川オリーブガイナーズへの入団が決まった時は「万歳！」と、飛び上がって喜んだ。しかし張り切りすぎたため、開幕前の試合で肘を痛めてしまう。それ以後は「クビになりたくない」の一心でとにかく目立つ事を心掛けた。足が速かったから、それをアピールしようと、内野ゴロを打つ。ヒットやフライでは駄目。攻守交替のときには、ベンチから守備のレフトまで全力疾走する。ガムシャラにやってる姿はきっと観客に見てもらえるはず、という思いでやってるうちに、プロ野球のスカウトの目に留った。そうして千葉ロッテに指名される。

—— スカウトの心を動かせたから、プロになれたんです。就職したら、上司の心を動かさないと出世できないです。

人に喜んでもらうのが好きなのでウェディングプランナーに転職したが、その時まず考えたのが、どうすればお客に「生山さんをお願いしたい」と言わせるか。その答えが蝶ネクタイだった。毎日蝶ネクタイで出勤した。服装が乱れていると上司は顔をしかめている、という噂を聞くと、経営陣に自分の思いを直訴し、OKしてもらった。しばらくすると、お客からの指名が増え、蝶ネクタイをしてくるお客まで現れた。2年続けると取引先にもアピールするようになった。

—— 全力疾走も蝶ネクタイも誰でもできる事なんです。でも誰もしない。誰でもできるが

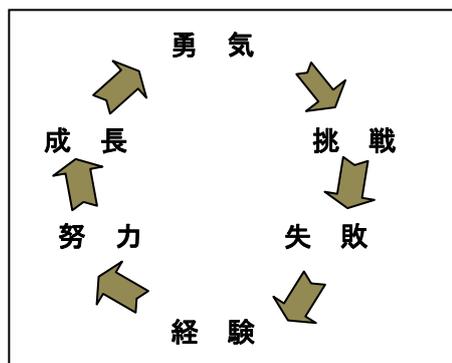
誰もしないことを継続すると、それが武器になる。

プロ選手になるのが夢だったのではない。いろんな職につき 30 歳になったとき、本当にやりたい好きなことが見つからずヤバイ！と思った。だから本気でやりたいことを探した。行動をおこすこと、人に会うことが大事だと思って動いた。人に喜んでもらうのが好きで、ワクワクさせたいから、それを探した。

—— 保護者の方にはお願いします。お子さんに選択肢を与えてあげてください。本気で探して見つけた好きなことには圧倒的なエネルギーがあります。好きな事なら、とことんやって駄目でも諦められる。

筑波大陸上部でオリンピック選手まで育てた先生に、「選手に、自信もって行けと言われるのですか」と聞いたことがある。「自信もて、なんて言わない。・・・私は、勇気もって行け！と言う」とおっしゃった。勇気もって、はいい言葉だなと思う。

—— 勇気を奮いおこすには準備と覚悟が必要です。だから勇気の数だけ成長できる。挑戦しなくても成功する人はいる。でも自分がこれだと決めて挑戦した結果手にする成功が大事なんです。



高校生から「影響を受けた人はいますか。」との質問に、生山氏は元ジャイアンツの鈴木尚広選手を挙げ、一流と超一流の違いを説明されました。

—— 一流の人は負けず嫌い、超一流の人は理想の自分になるために努力する。

鈴木選手は、氏にとって雲の上の人でしたが、あるとき羽田空港で出会い、勇気を振り絞って教を乞うた結果、自主トレを一緒にしてもらえるまでになったそうです。また、大阪の公立高校に配布された雑誌『高校生活』に氏の記事が載ったことがありました。それを讀んだ若者から「万年補欠選手だった私は、あの記事を読んで発奮し、実業団チームのレギュラーになれました。」と声をかけられたそうです。「これって凄いですよね。ホント嬉しいです！」少し高いトーンで興奮気味に話され、今は四国アイランドリーグのOB会をつくらおうとしている、来月は舞台に出るつもり、と話されました。氏はこれから人もワクワクさせることを続けていかれると思います。